



SORAK Development Agency
Registered NGO No:8726

UEB Zone, Church Road -Mullago; P.o Box, 71883 Clock Tower -Kampala; Tel:+256 703515225
Mubende Office: Lusairi T/C, 16km from Mubende Town along Mubende -Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

女子生徒の生理の衛生管理に対する保護者への啓発

日付：2017年4月13日

場所：ルワウナ初等学校（Lwawuna Primary School）

序論：

生徒を対象としたプロジェクトはすべて、保護者からの理解・同意が不可欠である。プロジェクト発足時に行ったベースライン調査では、女子生徒の保護者は生理用ナプキンの提供については、政府や学校に責任があると考えており、保護者自身でのナプキン提供を怠っている状況であることが分かった。このような青年期の娘に対する保護者の態度（認識）により、女子生徒は生理用ナプキンを入手する手段がなく、生理用ナプキンを購入する資金を得るために、女子生徒自ら週末や休日に簡単な仕事をしている状況もある。

したがって、家の資産を管理している父親も巻き込み、女子へ生理用ナプキンを提供する責任が保護者にあることを意識付ける必要がある。

トレーニングの目的

- 保護者に対し、実施中のプロジェクトの説明及び、無条件の支援・協力を要請する。
- 女子生徒の生理に関する衛生管理の実行にあたり、親の役割と責任について話し合う。
- 女子生徒が、学校や家で直面する生理に関する課題への対策を見つける。

ファシリテーター

- Byekwaso Habibu- Vice Chairperson/Village Health Team (VHT) Nabingoola Sub County.
- Muhamad Kyeyune- SORAK の代表
- Nnakiruuta Hadijah- SORAK のプロジェクトマネージャー

議題

- 月経に関する衛生課題と逸話
- 月経時に衛生管理を怠ることに伴う感染などの危険性
- 月経時の衛生管理の実施における保護者の役割と責任
- 再利用可能な生理用布ナプキンの有効性

トレーニング参加の男女比

ルワウナ小学校の教頭により小学校1～7年生までの保護者を動員した。参加者は男性61名、女性39名。（ウガンダの小学校は7年生までである。）



生理の衛生管理の実施における自分たちの役割と責任について熱心に耳を傾ける保護者たち

セッションの方法

・事例を用いた紹介

トピックに関して、どのように発生し克服したかを学ぶことができる適切なシナリオを参加者やファシリテーターが説明する。事例により常に互いの経験を共有し学びあうことができる。

・質疑応答

トピックに関わる質問を参加者へ投げかける。自由回答形式にし、質問に答える過程において、互いに学ぶことができる

セッションの結果

- 母親たちは青年期の娘に生理について説明をすることを誓い、父親は娘の生理用ナプキンを購入する費用を割り当てると約束した。保護者は洗って何度も使える布ナプキンの取り組みは経済的という理由で本事業を歓迎していた。
- 保護者、特に父親は月経についての知識が乏しい。生理に関する逸話を信じており、聖書に書かれている真実であるかのように思っていた。その逸話のせいで、生理中にはならないと信じられていること（塩を食べてはいけない、男子と行動してはいけない、他の人たちとグランドナッツを食べてはいけないなど）により、生理中の女子はできる行動が限られてしまう。しかし、このような逸話は、もともとは年配者（長老）が、女子が妊娠させられたりするような問題にならないよう、生理中は男子と一緒に行動させたくないがために作り上げた逸話であることを、セッションにより特に父親たちに理解させた。
- 母親たちは生理中の不適切な管理は危険でリスクを伴うものであることが理解できた。
「いままで娘が生理になると、いらなくなった古いスカートを使わせていた。自分は生理

用ナプキンを買うお金はないけれど、もっと健康（衛生）的な方法で娘の生理に対処（管理）・サポートができるように変わりたい。私はシングルマザーなので、使い捨ての生理用ナプキンを買うなんて夢」（ルワウナ小学校の6年生の女子生徒の母親）

- 父母とも、SORAK が学校で行う生理における衛生管理に関する活動への子どもの参加に同意した。

今後における提案

- 活発な保護者数人を選抜して再利用可能な生理用布ナプキン作成トレーニングを受講させること。ほとんどの母親は布ナプキン作成に興味があり、また生徒よりも時間があるので、保護者を対象の布ナプキン作成トレーニングは有効だと考える。
- 小学校1～7年生の子どもを持つ保護者全員を招待したが、同じ地域内でも遠くに住む保護者は今回のセッションに参加する機会がなかった。もし予算があれば、今回参加できなかった保護者に届く範囲のコミュニティベースで地域の人々を対象とした啓発活動をした



保護者の怠慢が女子に与える影響について語る
ルワウナ小学校の教頭



女子が生理中に直面する課題について教頭の提言
に耳を傾けるファシリテーターたち